
飲酒運転

S e y R a i n

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飲酒運転

【Nコード】

N3315D

【作者名】

Sey Rain

【あらすじ】

後を絶たない飲酒運転による事故に警察は頭を抱えていた。そこで、有識者達が集められ対策を練った。その対策とは？

法律の規制を強めても、いつこうに減らない「飲酒運転」に警察は頭を痛めていた。

そこで心理学の専門家や有識者が集められ、いかにしたら「飲酒運転」を減らすことができるのかが話し合われた。

ある者は「飲酒した場合に車が作動しない装置を導入すべきだ!」
と言うと、「装置を外す者が現れるから効果は薄い。」と述べる者。
またある者は「もつと罰則を厳しくすべきだ! 凶器を走らせているのだから、いつそ国家反逆罪を適用してはどうか。」とそれぞれの意見を述べられた。

それまでみんなの意見を黙って聞いていた一人の男が口を開いた。
「どれも多少の効果はあるにせよ、それだけでは不十分ですな。」

「では、どのような方策が良いと言うのです。」

集まった者たちは、口々にその男を問いただした。

「過去に飲酒運転をした事で検挙された者を対象に、その者はもちろんですがその家族も含めて、本人たちが飲酒運転の事故に巻き込まれた場合、事故を起こした相手は飲酒運転で事故を起こした履歴は残りますが、罰せられない事にしますのです。」

集まった者全てが静まり返った。その中で男は話を続けた。

「事故を起こした者は、みなさんの仰るくらいに厳しく罰するのは当然です。飲酒運転する者の大多数が自分は大丈夫だと思っている過信があるのです。しかし、他人も飲酒運転をして事故を起こさないと思える人がいますか？」

ましてや、自分が飲酒運転した為に、本人はともかく家族が事故に巻き込まれた場合に、その相手は罪に問われないとなると……」
そこに集まった者たちは皆うなずき、その意見が急いで報告書にまとめられた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3315d/>

飲酒運転

2010年12月9日18時02分発行